対面リーディング通信

２０１３年２月１日 発行　　第１４７号（隔月刊）

灯りをかかげて go 周年 100年に向かって

2013年 2月

本年も昨年同様、よろしくお願い申し上げます

谷口由紀
木田陽子
木村謹治

今月号の主な内容

『対面リーディング通信は２５周年を迎えました		浅田　小陽子	２
大事なことを学んだ２年間		田中　綾	３
「対面リーディング通信」に携わって		佐々木マス子	４
対面朗読通信創刊のころ		片岡　珠子	３
対面リーディング難所物語	固有名詞の漢字をどう伝えますか？	二村　晃	５
私のふるさと	私のふるさと「大阪」	好川　佳子	６
障害者の権利条約の批准と完全実施に向けて		ｋ	７
情報発信	私の iPad、iPhone の使い方	中條　與子	９
報告	図表の読み方勉強会	木田　陽子	１０
情報発信	伴走者と共に　　おもいっきり走る	赤堀　浩敬	１１

『対面リーディング通信』は25周年を迎えました

８階　製作部所属　浅田（あさだ）　小陽子（さよこ）

『対面リーディング通信』は、その前身である『対面朗読通信』の第１号発行が1988年１月14日でしたので、今年１月末発行の2013年２月号で創刊から25周年を迎えました。四半世紀という長い間に亘って活用してくださった読者の方や編集にご協力くださった数多くのボランティアの方々に心より感謝申し上げます。

私が前任の担当職員であった木村より編集の仕事を引き継いだのは、人事異動により読者サービス係に配置換えになってすぐ後の、1991年７月発行の第22号からで、その当時は『対面朗読通信』と呼んでいました。以来、「専門用語の読み方入門」コーナーをはじめ、横のつながりが少ない傾向にある対面ボランティアの方々のお役に立てるような紙面作りを続けてきました。中でも、利用者である二村晃さん執筆の連載記事「対面朗読の難所物語」シリーズは大好評でした。このシリーズは二村さん自ら再編集されて出版されています。

25周年ということは、年６回隔月の奇数月に編集をし発行しますので、今号で節目の第150号になるわけです。その最初の節目に当たる第50号（1996年５月）から名称が『対面リーディング通信』に変更になりました。これは対面サービスの事業をより充実、発展させるためでした。そして、２番目の節目は第100号（2004年10月）で、この時、ボランティアの編集委員であったKさんが、第１号から第100号までを２冊に分けて手作業で３部製本してくださいました。私にも１部いただきましたので、今でも手元で大切に保存しています。

その後、私は配属や勤務形態が変更になりましたが、しばらくは旧盲人情報文化センターと仮移転先の道頓堀ビルで、編集のお手伝いをさせていただいておりました。しかし、肥後橋に新館がオープンし、私自身の勤務場所が道頓堀ビル（当時は分館）から肥後橋の新しい本館へ移転しましたので、編集作業が出来なくなり、2009年８月第129号で最後になりました。

あれもこれもと思い出がいっぱいあって、書ききれないのが残念です。

ボランティアの皆さまとの深い絆で結ばれた『対面リーディング通信』は今後ますます発展していくものと信じ、筆を置きます。

［編集者注］計算上は今月号で１５０号になるはずですが、合併号？　休刊？　号数の付け間違い？　なのか、「１４７号」になってしまいました。　k

大切なことを学んだ２年間

田中（たなか） 綾（あや）　（旧姓：足立（あだち））

私が初めて対面リーディングの担当をさせていただいたのは今から７年前、ライトハウスにやってきて２年目のことでした。

当時は盤井さんが担当されていたのですが、その引継ぎとして私が選ばれました。当初何も考えず引き受けた私ですが、盤井さんの後ろを金魚のふんのように付いて回り、ボランティアさんや利用者さんと交流されている姿を見て、自分にこんなことができるのだろうか？と不安と後悔の気持ちがふつふつと湧き出てきたことを覚えています。

対面リーディングのコーディネイトは、ただ時間と場所を合わせることではない、人と人を繋げる役目をする重要な任務だと後から気づきました。そして、ボランティアさんの得意分野や性格、利用者さんの要望や性格、これらが頭の中のコンピューターに入っている盤井さんの引継ぎなど到底できないと気持ちが沈んだこともあります。

でも、そんな気持ちを救ってくれたのもボランティアさんであり利用者さんでありました。まず顔とお名前から覚えなければならない新人の私を優しく叱咤激励してくれたボランティアさん。娘のようだと心配して気にかけてくれたボランティアさん。うまくコーディネイトできずに困っているとき、「田中さんのために行くわ」と言ってくれたボランティアさん。急なお願いにも快く応じてくれたボランティアさん。本当にたくさんのボランティアさんに助けられ、育てていただいた２年間でした。

人と人とのつながりの大切さ、そこに信頼関係が生まれたときの嬉しさ、安心感。人生における大切なことを密に教えていただいた２年間だったと思います。

そんな私、現在は４歳と２歳、０歳の子供の育児に奮闘しています。日々忍耐力の勝負です。またいつか一回り大きくなった姿で皆様とお会いできたら嬉しいです。

最後になりましたが、私に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。そしてこれからの益々のご活躍を期待しています。

「対面リーディング通信」に携わって

録音ボランティア　佐々木（ささき）　マス子（こ）

今年で「リーディング」は２５年になるそうで　その一時期、編集者として携わったものとしていくつかの思い出を綴ってみます。

最初、編集を依頼された時、自分で原稿を書くことはなく　校正をするだけとの事で引き受けたのですが、とんでもない！　まず雑談コーナーに毎回何か原稿を提出すること、それに編集の決まり事もいろいろあって、見出しの字体はどうとか、行を変えるのはどんな時とか、一字あける時は？　などはじめて知ることばかりでした。

次に編集会議です　次回の紙面の各ページが決まると　職員さんにお願いしたりして、テーマによって原稿依頼する方を決める、又自分たちで取材に行くなど　結構バタバタと（人気作家ではありませんが）原稿に追われていた事を思い出します。

次に年度末には　利用状況の集計表作りがあります。ボランティアの皆さんがいつも対面のあと記録していただいていたものを、分

野別に集計します。編集員総出で、原始的にひとつひとつ読み上げ、「正」の字を集めて作成しました。

そして、年に一度のイベント、対面リーディング・ボランティアの集いの開催です。日時を決め、職員さんにもお願いし、講師の方を決め、前号で予告もし、出欠の返事をお願いします。しかしなかなか返事を下さらない方も多く、結局編集委員が手分けして、皆さんに電話で出欠をおたずねします。でも、そんな記事は読んでいませんでしたなどのお返事もあり、がっかりする事もしばしばでした。

対面ボランティア同士が交流する機会が少なく（もちろん利用者さんとの交流も大切な事ではありますが）全員が一同に会し、それぞれの経験をお聞きするのはとても良い勉強になります。

最初に、いまは引退しておりますが、最近対面リーディング向けの勉強会が始まっているようで、とってもうれしい事です。いつも、こんな時どうすればいいかなど、とまどう事も多く、音訳は続けておりますが、やはり対面独特の表現の仕方や方法、特殊な処理の仕方（即決、即断など）もありますので、勉強会はとても良いと思っています。

対面朗読通信創刊のころ

録音ボランティア　片岡（かたおか）　珠子（たまこ）

今は録音製作で音訳ボランティアをしておりますが、私と日本ライトハウス情報文化センターとのご縁は、対面リーディングから始まりました。カルチャーセンターの「ボランティアのための朗読」の講習が終わる頃、本当にお役に立てるのか不安な気持ちいっぱいでこちらにやってきました。２０数年前のことで当時は「対面朗読」といっていました。

利用者との接し方、読書の秘密厳守などを教わり、ドキドキで活動をはじめました。

担当の職員は木村さんで、毎週１回くらいの頻度で対面にきていたように思います。やっと少し慣れて一年くらい過ぎたころから、読むものがだんだん多岐に亘るようになり、専門知識がなければ読めないのではと迷うことが多くなりました。先輩の方々に相談しましたところ、「対面」は、ボランティア同志のつながりがなく勉強会もないことから、ミニコミ誌的なものを出して対面朗読ボランティアに情報を発信してはと、館に提案することになりました。そして生まれたのが「対面朗読通信」でした。

専門知識がなくても基礎知識があれば利用者と相談しながら進められるのではとの考えで、毎号「対面の役に立つ記事」を目標に編集作業を続けました。スクラップをしていけば立派な対面用のマイ辞書ができるのでは・・・そんな気持ちでした。ボランティアが中心の編集会議は悩んだり迷ったり。今思えば、生真面目でお堅い編集委員さんばかりだったかもしれません。編集会議が終わるとお楽しみの昼食、これがなければ編集委員は続けていられなかったかもしれませんね。

「対面朗読通信」から「対面リーディング通信」へ。Ｂ５からＡ４サイズへ。対面通信の担当職員さんも替られ、内容も随分変わりました。最近号を読ませていただきましたが、楽しくて読みやすく、あの頃、私達は何を悩んでいたのかと思ったことでした。そのうえ技術を深めるための図表の読みの勉強会も行われているとは。対面リーディングの質が向上しているであろうことも知りました。

「対面リーディング通信」が２５年も続いていて、その創刊号のころの編集委員のひとりであったことをとてもうれしく思い出しています。

73. 固有名詞の漢字をどう伝えますか？

二村（ふたむら）　晃（あきら）

平成25年の幕開けです。遅まきながら、新年おめでとうございます。

昨年末の総選挙では民主党が惨敗し、自民党の圧勝で再び政権交代ということになり、安倍内閣が誕生しました。安倍さんもこれで二度目の首相就任ですが、最初は「安部」と誤記されることが多かったそうですね。

昨年のプロ野球は巨人の圧勝に終りました。最高殊勲選手は、４番打者として打撃陣の中心に座り、投手リードでも重責を果たした阿部捕手！　敵ながらアッパレな男でした。昨年は完全にやられました。文句のない選考でしょう。

さて、この「安倍」と、「阿部」。さらに一般的な「安部」があり、大阪の地名ですが阿倍野区・阿倍野橋の「阿倍」があります。対面の場合など、何気なく読まれる「アベ」でしょうが、視覚障害者にとってはどの「アベ」かわからず、マゴマゴすることになってしまいます。ちょっと一言、漢字の森で迷わないよう注釈を入れてほしいですね。

まず第一に、「アンシンのアン」か、「コザトヘンのア」か？　次に、「ブブンのブ」か、「バイリツのバイ」か？　これで、四つの「アベ」がはっきりと認識されます。安倍内閣発足の2013年の年頭に当り、「アベ」の識別をよろしくお願いしておきます。

固有名詞の漢字表記は、視覚障害者が最も苦手とする分野です。グループＮ‐ｂｕｎに『群像』書評欄の音訳をお願いしていますが、いつも固有名詞の音訳を漢字の説明中心にしっかりやって下さるので、とても助かります。特に作年の11月号では、話題の女性作家十数人の姓名を全部教えて頂きました。作品は、04年芥川賞受賞の『蛇にピアスを』や、『蹴りたい背中』ぐらいしか読んでいませんでしたが、音訳作品を探すことにします。

書評に挙がったのの、「タナカヤヨイ」著‥「タンボのナカ・春３月のヤヨイ」で、田中弥生著『スリリングな女たち』です。現代を代表する女性作家群の作品を採り上げた評論集で、作家名や作品名がどんどん出て来ます。比較された80年代の作家名も揃って、私の中では女流作家字典が出来上がりました。こんな具合に伝えて下さったのです。

「カシマダマキ」‥「ドウブツのシカ・シマグニのシマ・タンボのタ・シャシンのシン・キボウのキ」で、「鹿島田真希」。「ワタヤリサ」‥「モメンワタのワタ・ユミヤのヤ・りさはひらがな」で、「綿矢りさ」。この要領で全員をやって頂いたのですが省略して、以下に理解できた作家名を記します。「モトヤユキコ」本谷有希子・「カネハラヒトミ」金原ひとみ・「シマモトリオ」島本理生・「シバサキトモカ」柴崎友香。この６人に昨年芥川賞を受賞した朝吹真理子を加えた30代以下の若い女性作家たちは、80年代の文学界に新風を吹き込んだ気鋭の女性作家群、大庭みな子・三枝和子・富岡多恵子・増田みず子・山田詠美・笙野頼子・よしもとばなな・松浦理英子などの作品とは、はっきり違う何かがあると論じています。それは感覚の世界で捉える人間の神秘性を描くことでしょうか？

書評は難解でしたが、作家の漢字姓名は、嬉しい贈物でした。　〈つづく〉

私のふるさと「大阪」

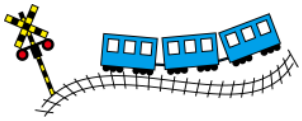
整理情報係　好川（よしかわ） 佳子（けいこ）

私のふるさとは、「大阪」です。“大阪生まれの大阪育ち”なのですが、多彩な魅力をもつふるさとをご紹介するにあたり、どこをどうお伝えすれば良いのかと随分迷ってしまいました。そこで今回は、私が勤務する西事業所（情報文化センター）から東へ、鶴見事業所（本部とリハビリテーションセンター等）と東事業所（点字技術情報センター）の方角へと続くコースを選びました。あまりに地元過ぎて…となるかもしれませんが、どうかひと時、お付き合いください。

出発地点は、肥後橋。今、土佐堀川の向こう側には、「フェスティバルタワー」が美しい姿を見せています。江戸時代、大阪は「天下の台所」と呼ばれ、「堂島」には堂島米会所（享保15年＝1730年に開設された米の取引所、全国の年貢米が集まる所）がありました。そしてこの頃、たくさんの「新田」と「会所」が作られました（幕府による検地の後に開墾された農地は、水田・畑地を問わず「新田」と呼ばれました）。現在、堂島米会所は「堂島米市場跡記念碑」が残るだけで実際に見る事出来ませんが、大阪府下では、現存する「会所」3か所が公開されており、その一つが「鴻池新田会所」です。

肥後橋から「鴻池新田」へは、電車やバス等、いろいろな手段が利用可能です。前半部分を歩くと、橋めぐりも楽しめます。道を教えて頂いて、私も時々歩いています。

＜肥後橋→錦橋→栴檀木橋（せんだんのきばし）→淀屋橋→天神橋→天満橋→大坂橋→京橋＞と、JR・京橋駅まで、土佐堀川側から大川・寝屋川に架かる主な橋だけで、これだけの数。「水の都」に「八百八橋」、といわれるだけはあります。歩くと眺めがステキなこのコース、昼と夜で雰囲気も変わります。2012年に日本ライトハウスの創業90周年記念式典が行われた「大阪市中央公会堂」、東京「兜町」と並ぶ日本の二大証券街「北浜」、中之島図書館、東洋陶磁美術館、中之島公園。難波橋・天神橋・天満橋は、浪華三大橋。獅子像がある愛称「ライオン橋」の難波橋。夏、日本三大祭の一つ「天神祭」で賑わう天神橋。遠く京都・伏見まで「淀川三十石船」が行き来した天満橋。近くの造幣局では、春に「桜の通り抜け」があります。更に、「大阪城」と「ツインタワー」のあるビル群「OBP（大阪ビジネスパーク）」。随所に記念碑もあり、見所、盛りだくさんです。



電車で直行するなら、JR東西線・学研都市線＜北新地駅→大阪天満宮駅→大阪城北詰駅（ここまで地下駅）→京橋駅→鴫野（しぎの）駅→放出（はなてん）駅→徳庵（とくあん）駅→鴻池新田（こうのいけしんでん）駅＞が、一例です。放出駅が鶴見事業所と東事業所の最寄り駅なので、進行方向右側の窓に、東事業所の建物が一瞬ですが確認出来ます。電車からの見所は、寝屋川に架かる徳庵橋の辺りで、「ふり売りけんか」で有名な「徳庵堤」です。

鴻池新田駅で下車すると、目指す「鴻池新田会所」（国史跡・重要文化財）があります（徒歩・約250m）。地名・駅名・会所名は、豪

商・鴻池善右衛門（こうのいけぜんえもん）の名前に由来します。低湿地で米作には向かなかったこの地では、「河内木綿」を中心に、レンコン栽培も行われていました。今は住宅地の風景ですが、ほんの少し前、昭和の初期には、用水路が通る一面の新田で、高い建物のない所からは、大阪城を望めたと聞いています。

「お米」から「河内木綿」まで、「会所」をつなぎ、3つの事業所近辺を巡るコース、いかがでしたでしょうか？川から、一味違った「大阪」を体験したい方には「水上バス」もおすすめです。また、「鴻池新田会所」を含め公開されている3か所の「会所」は、古建築や庭園等が楽しめます。興味をお持ちの方は、是非おでかけください。

●鴻池新田会所（東大阪市）　●加賀屋新田会所跡（大阪市住之江区）

●安中（やすなか）新田会所跡（八尾市）　※各HPで、開館情報等が紹介されています。

水上バス:京阪グループ・大阪水上バス㈱の「アクアライナー」は、大阪城公園～中之島周辺の名所を、約60分間で遊覧するクルーズ船。定期便の他に、季節のイベントクルーズもあります。

※ 料金・時間等の詳細は、各所にお問い合わせください。

情報発信

障害者の権利条約の批准と完全実施に向けて

2006年12月に採択された「国連障害者の権利条約」は、 あらゆる障害（身体障害、精神障害及び知的障害等）のある人の尊厳と権利を保障するための人権条約です。

この条約は21世紀では初の国際人権法に基く人権条約であり、2006年12月13日に第61回国連総会において採択さました。

2008年4月3日、エクアドルが批准し、批准国20カ国に達し、これにより30日後の5月3日、障害者の権利条約は発効しました。

障害者は、建前としては健常者と同じ権利を与えられながら、実際には、雇用、教育、保健・医療、法的権利行使等の面で差別を受けています。この条約は50カ条からなり、加盟国に対し、市民的・政治的権利、教育を受ける権利、保健・労働・雇用の権利、社会保障、余暇活動へのアクセスなど障害者保護への取り組みを求めている。なお、規定された諸権利の侵害について障害者の権利委員会への個人通報を可能にする選択議定書も予定されています。

わが国は、2007年9月28日に１１５番目の国として、国連において障害者権利条約を署名しましたが、**未だに批准していません**。

2012年12月現在の批准国は126カ国にのぼります。なお欧州連合は2010年12月23日に組織として集団的に批准しています。

国内法の整備など難しい問題を抱えていますが、早期の批准が望まれます。

私のiPad、iPhoneの使い方

児童館事務員　中條（なかじょう）　與子（ようこ）

「もしかして、こんなん出来るかも？」と可能性を感じさせてくれる機器が、私にとってアップル社の iPad（アイパッド）と iPhone（アイフォン）です。私は見えにくくて（視野障害）、聞こえにくい（感音性難聴）のですが、プライベートでも仕事でも iPad と iPhone に、助けられています。[※注　これから書く iPhone については、電話機能がない iPod　touch（アイポッドタッチ）というものでも出来ます。]

最初そう思わせてくれたのが、「soundAMP R」*1 という聞こえのサポートをしてくれるアプリに出会った時です。二年程前に iPhone が補聴器の代わりにならないかなと、インターネットの検索エンジンで探したら偶然見つかったものです。iPhone に音楽を聴くイヤホンを差し込み、アプリを立ち上げると、マイクから拾った音が耳から人の言葉や音が聞こえます。まだ殆ど知られていない使用法なので、一生懸命に人のお話しを聞いていても、iPhone で音楽を聴いているように誤解される時も多いです。初対面の方には、説明を心がけてます。本当の補聴器のように、雑音抑制機能や、音の遠近感がないので、耳が害しない程度に利用しています。補聴器の長所と、この soundAMP アプリの長所を活かし、時と場合に使い分けて、私の聞こえを助けるパートナーとなってくれてます。それがきっかけで、iPhone に魅了されるだけに留まらず、iPad にも手を出してしまいました。今日は、その一部をご紹介したいと思います。

まずはカメラの機能は、よく利用します。iPhone のカメラ*2 の静止画は、物を探す時に重宝します。ちょっとペンが落ちたり、お金が落ちたり、お店などで物を探す場合、iPhone のカメラを立ち上げて、写真を撮る状態にして画面を通して探します。「マイナスレンズ」の役割を果してくれて、実際の目で見るより、心ばかり見える範囲が広くなります。そして画面に映し出されている景色は、コントラストがはっきりして見やすく、「もっと拡大させたい」と思えば、画面上に手の親指と人差し指で、その拡大したい部分を伸ばすようにします。ズーム機能が働き、画面には見たいものが大きくなって写し出されます。（写真を撮った後の画像にも、同じように手の指を利用して、拡大機能が利用できます）

iPad でも同じ事が出来ます。iPad は iPhone より、カメラの倍率が最初から高いので、私は大きなものを撮る時に利用しています。講座に参加した時に許可を得れれば、パワーポイントやホワイトボートに書かれた文字を、ノートの記録のかわりとして撮ります。そのお蔭で講座で参加する時は、話しを聴く事に集中し、講座が終わった後に撮った写真を見ても講師が書いた文字情報を自分のスピードで確認できます。

追記しておきたいのが、特に iPad の４世代、iPhone ５世代からは、カメラの画質が良いので、持ち運びが出来る拡大読書器として使うと良いと思います。

---

*1「soundAMP R」…４５０円

*2 「カメラ」…最初からついている標準アプリ

カメラの動画も、重宝しています。特に仕事では、活躍しています。上司などから、ファイルをなおす場所を説明されたり、パソコン上で仕事の過程を説明されたりする場合、初めて見る事が多く、説明されるスピードは私にとって早いので、正しく認識出来ているとは限りません。説明を受ける時に許可が得れたものは、パソコン上や場所を問わず、iPad の動画で撮影します。ぼやけたりしている事は多々ありますが、動画は音声情報も同時に記録されていますので、説明を受けている時は説明を聴く事に集中できます。そしてその後、動画と音声に漏れている部分を、自分でわかるようにメモで加筆します。プライベートでも、説明されるものは、動画を活用しています。iPad で撮影する際、足元が見えにくくなるので、注意が必要です。

文字情報を撮る時は、写真の静止画と「SHOT DOCS」*3 というアプリを利用しています。「SHOT DOCS」は、カメラ機能と専用のファイルやシート、ノートを利用して、書類をデータ化が出来ます。同じようなアプリは、事務系グッズを取り扱っている会社が出してますが、私はうまく出来ませんでした。文字情報がぼやける事が多かったのです。でもこのアプリは、voice over（ボイスオーバ）という、音声読み上げ機能を立ち上げながら利用すると、撮って良い瞬間にアラームが鳴り、画面が光ってくれるので、撮る瞬間が他社に比べてわかりやすく重宝しています。外出先でも場所を問わず、データ化できます。私の最近の利用の仕方は、専用ノートでメモした自分の手書き文字や、職場の新年会案内チラシ（地図入り）をこれを使って、iPad に取り入れました。まず紛失を避けれて、当日場所に迷えば、行き交う人に iPad を見せて行きたい場所を正確に伝えれます。

最後はこの情報誌の名前である読書の仕方です。文庫本が読める視力がありますが、最近は疲れやすく読みにくいです。楽に読める環境を整えてくれるのが iPad です。（これから説明するものは、iPhone でも出来ます。）「iBooks」*4 というアプリは、PDF 化されたものが読めます。本などを PDF 化（自炊）したものや、メールの別添やインターネットで PDF 化されたものを、「iBooks」に取り入れて読んでいます。iPad での読書は、パソコンと違って見る角度をいつでも自由に変えれるのが楽です。私は眩しさに弱いので、iPad の画面の明るさを抑えてますが、アップル社は文字の形や写し出し方に拘っているお蔭で、文字の形が綺麗に見えるます。他のに比べて良い点だと感じる部分です。もちろん、拡大も出来ますし、voice over（音声読み上げ）機能を利用して、文字情報を読みあげてくれる事が出来ます。

データ化したものの中で、探したい言葉を見つける為に、検索機能を利用します。「iBooks」でもありますが、私は「i 文庫 s」*5 というアプリを利用してます。検索されたキーワードの文字が、黄色のマーカで反転されているため、文字を見つけやすいです。

こうやって豊かな「見る」ライフを送れるのに至ったのは、２年前に補聴器（本物の）をよく忘れる私に、「補聴器を忘れるなら、忘れて良いようにもう一つ予備を持ちなさい!!」と先輩に激怒されたお蔭です。「補聴器は数十万円するので、買うの無理です」と言えず切羽つまった直感が、今日という日々の実現に繋がりました。何より複数の機能を、ひとつの iPad と iPhone で実現できるので、荷物も軽くなります。

全てが voice over（音声読み上げ）機能が働くわけではないので、残念ながら全て見え方の方に使えるものではありません。たくさんアプリがあり、同じような似た機能のアプリが複数あるので、自分に合うアプリを探す大変さはあるか．もしれませんが、日本だ

*3「SHOT DOCS」 http://www.kingjim.co.jp/sp/shotdocs/ アプリ…無料
アプリを使用する際、書類を綴じるファイルやノート等…有料
*4 「iBooks」…無料
*5 「i 文庫 s」…３５０円

けではなく海外のアプリも出回っているので、見つかる可能性があります。

最近、情報文化センターでは、iPhone を体験する「ＩＴサロン」が開かれていると聞いています。心斎橋にあるアップルストアーや、京都と大阪にあるヨドバシカメラには、iPad や iPhone が触れるスペースがあります。アップル社のホームページでは、身体障害者手帳の保有者には価格販売の案内があります。（相談や質問は、0120-99-6622）

私が今の使い方に辿りつくのには、一年以上の時間がかかりましたけれど、魅力を感じています。もし興味があったら、色々な見え方の方に、手を取ってみて欲しいと思っています。

報告

図表の読み方勉強会 報告

職員　木田（きだ） 陽子（ようこ）

出席者の皆さんに（対面・音訳の活動中ではなく、余暇などで）自分が読んでいる本に図表が出て来た時はどうしているかお尋ねしたところ、以下のような意見が出ました。

- 読み飛ばす
- ぱっと見る程度
- 気になったものだけチェックする
- じっくり見て、自分ならどう音訳するか考える

（ボランティア活動を始めてからこうするようになった、という方が何名かおられました）。

皆さんが「読み飛ば」してみたり「気になったものだけチェック」してみたりするように、対面リーディングサービスの利用者の方も「その表は今要らないです」、「もう少し図の説明をしてもらえませんか？」と、読む場所を選ぶことができます。このように対面は「自分で本を読んでいるかのように」聴ける読書の仕方です。

蔵書を作る場合と比較してみてください。

- 録音図書：誰が聞くかわからないので、原本に書かれていることは全て言葉にする。理由なく読み飛ばしてはいけない。
- 点字図書：点を使ってある程度の図なら描けることもあり、わざわざ言葉に直さなくても大丈夫な場合もある。

今回の勉強会では、初見の図表を1人だけにお見せして説明してもらい、他の方に聴いて頂いた上で、どのように読んだら良いかということを全員で話し合いました。

使用したのは、帯グラフ（日本ベンダーの事業展開、の中心部の衰退、登録人口による人口動向）、サザエさんの家系図、裁判所の組織図、メタボ健診の流れを書いたチャート図などです。

次回以降の勉強会では、皆さんが実際の活動の中で処理に困った例をお寄せいただき、それについて考える機会をもちたいと考えております。ご参加をお待ちしております。

伴走者と共におもいっきり走る！

赤堀（あかほり） 浩敬（ひろのり）

趣味で25歳ぐらいからマラソンを始めていました。その頃は、毎月のように関西の市民マラソンに参加してました、また後輩の誘いもあり、トライアスロンも参加するようになりました。ゴールしたあとのビールがうまくて、走るのが好きでしたね。

そんな中、37歳ごろだったかな、突然右目上半分以上が黒いカーテンに覆われたようになり、すぐ病院に行きました。医者からは病名は網膜剥離だから、すぐ手術しないと失明するよと言われました。その時はすごくショックでしたが、手術すれば見えるようになるからと言われ、手術しました。

しかし、今度は、左目が網膜剥離となり手術することとなり、1ヵ月以上の入院になりました。その後も何度か目が悪くなる度に手術しましたが、よくならなかった。そんな状態が続いたので、だんだんと何事においてもあまりやる気が起こらなくなりました。ましてや、走ることは、見えにくくなると無理だと思っていましたし、先輩も「網膜剥離は走ったりすると振動ではがれやすくなるから、やめといた方がいいよ」と言われていました。その反面、もやもやした気持ちの中、走りたい気持ちもありましたが、なかなかきっかけがつかめない状態が続いてました。

そんなころ、日本ライトハウスの盤井さんから、兵庫県伴走者協会や長居公園で走っている人たちがいるよとのことを教えてもらい、早速、兵庫県伴走者協会に問い合わせし、武庫川で練習会をしているとのことで、参加しました。伴走者と一緒に走るのは初めてで、俺が、ロープを左手に持ち、伴走者がロープを右手に持ち、「では走り始めましょう」という掛け声で、走りだします。腕を振るのがぎこちない状態でしたが、伴走者の方から、右に水たまりがあります、道が細くなりますので、ゆっくり走りましょう、前から自転車が来るので左に寄りましょう、右奥で少年野球をしていますよ、と、言葉で教えてくれるので、すごく走りやすく、周りの状況がよくわかり、その中を走っているんだな～と実感いたしました。

また、走りながら、自分の目の病気のことや仕事への不安、生活への戸惑い等を話たり、伴走者からも、伴走するきっかけとなったこと（病気になり、リハビリを兼ねたランニングをするうちに、誰かの手助けをしたいという気持ち）等、いろいろ人生経験を、お互いしゃべりあいました。べらべらとしゃべりながらのランニングでしたので、武庫川往復の2時間は、あっという間でした。お陰さまで、心身ともリフレッシュされいい気分になり、ランニングはいいもんだな～と改めて実感いたしました。

その後、第10回全国視覚障害者駅伝大会（滋賀県野洲市／希望ヶ丘文化公園）に、初めて伴走者と走りました。俺は、アンカーでして、ランナーと抜きつ抜かれつ、最後は抜かれて、離され追いつけませんでしたが、おもいっきり腕を振り、めっちゃ思いっきり足を上げ、ゴールまで走り切りました。

ゴール後、めっちゃ気持ちよかったです。伴走者の手引きのお陰で、おもいっきり体を動かせる素晴らしさを教えてもらいました。あ、それと、ゴール後の皆様から、「そば食

べますか？」「飲み物いりますか？」「氷食べますか？」といろんな方から声をかけてくれたのも感激でした。一人で走っていた時とまた違い素晴らしい感動を頂きました。伴走者に感謝です。ありがとうございました。

お話変わりますが、勤務帰り地下鉄西梅田から御堂筋に向かって歩いていたところ、白杖をついた女性がいたので、近づいていき「どちらまで？手引きいたしましょうか？」とお声をかけました。そしたら、「はい。御堂筋線梅田駅までお願いします。」と歩きながら、いろいろお話していたところ「いまからランニングです。」とのお言葉を受け、更に根掘り葉掘りいろいろと聞きまくったところ、その彼女は、長居公園で練習会をしているわーわーずのメンバーだったので、会のことを教えてもらいました。その後すぐ練習会に参加しました。練習会は、毎回伴走者を含め40～50名ぐらい集まります。伴走者の方と話しをしながらのランニングもよかったですが、ランニング後のビールを飲みながら、次の大会のことや過去に参加した大会のことなどいろいろと盛りだくさんの飲み会も最高です。

そんなこんなで、今、再び市民マラソン大会に参加するようになりました。一人で走ることもありますが、伴走者と走ることもあります。これからも、走り続けて行こうと思っております。あ、ついでにランニング後のビールも続けていこうと思います。

例年になく寒い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。

インフルエンザも流行っているそうで、どうぞご自愛下さい。

風邪など引かれた時は遠慮なくキャンセルの電話を入れて下さい。１０時までは**06-6441-0039**は留守番電話になっています。

１０まで、又は１７時以降の電話は**06-6441-0015**へお願いします。

もう一つお願いがあります。メールで連絡をご希望されているボランティアの皆さまへ、緊急の場合は電話での連絡をさせていただきたいのです。

メールでの返信を待ってから次の方に連絡するのでは間に合わない時があります。

どうぞよろしくお願いします。

▼少しずつ日が延びて、５時がこんなに明るかったかと驚かされます。▼光の春。寒い中にも、キラキラ光る陽の光に春の兆しが感じられます。　K

日本ライトハウス 情報文化センター
550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
06-6441-0015（代表）
06-6441-0039（サービス部）